

岩手県における農業労働力の動向分析

堀川 彰

(東北農業研究センター)

The Trend of Agricultural Labor Power at Iwate Prefecture

- An Analysis of the Agricultural Census Data -

Akira HORIKAWA

(National Agricultural Research Center for Tohoku Region)

1. はじめに

最新(2005年)の農業センサスデータを利用して、岩手県全体における農家状況の動向を見ると、以下の状況を指摘することができる。

- ①自給的農家および農産物販売金額50万円未満の(つまり、経営耕地面積のみによって規定された)販売農家が増加した。
- ②農業専従者を保有する販売農家が増加し、2005年時点では過半数を占めるに至った。

上記の①で示したように、岩手県においては地域農業の担い手としての農家の「アンダークラス化」とも言うべき状況が進行しているとみなすことができる。

勿論、農業センサスは5年ごとのピンポイントデータであり、農産物販売価格は、当該年の米価等の影響を受けるという事情を勘案しても尚、「農家のアンダークラス化」の進行は、ほぼ確実であると考えることができる。

上記の傾向について、岩手県全体と、市町村単位で集計を行い、それらを生じさせた原因についての仮説を提示・検証する。

2. 分析

最初に、岩手県全体での農産物販売階層の動向を見ることにする。

1990年、1995年、2000年、2005年の各時点でのデータを見ると、販売農家で「300万円未満」比率が 82.6→79.2→83.9→83.2(単位:%)とほぼ一定であり、かつ、「1000万円以上」比率が2.4→3.3→3.2→3.9(単位:%)と微増傾向に留まるのに対し、「50万円未満」比率は29.8→29.0→35.0→37.3(単位:%)と1995年以降8ポイント以上増加している。更に注目すべきは自給的農家数の推移で、16519→16432→16502→18698(単位:戸)であり、2000年から急増している。

この結果、県内総農家戸数に占める、「自給的農家+(販売金額)50万円未満の販売農家」の比率は、40.5→40.6→46.6→50.9(単位:%)となり、2005年時点で過半数となった。

これらのデータから、岩手県の農家階層の動向に関しては、「二極分化」と言うよりむしろ「アンダークラス化」、すなわち「(個々の農家としては)地域農業の担い手たり得ない農家の増加傾向」が進行していると考えられることができる。

次に、販売階層と地域特性との関連を見ると、図1に示すように、2005年時点で低販売階層(50万円未満)の比率が高い市町村は主として北上山地に位置する(耕作や飼育に関して)条件的に不利なエリアであり、その理由は地理的要因に求めることが可能である。一方で、2000年→2005年における低販売階層(50万円未満)農家戸数推移率を示したものが図2であり、相対的に地理的条件の良い市町村で低販売階層の増加が多くなっており、社会・経済的な条件の関与を示唆している。

上記の結果から、「2000年以降に、比較的地理的に恵まれた地域において農家のアンダークラス化が進行した」という作業仮説を構築することができる。

この仮説を検証するべく、「2000年時点での販売農家に占める50万円未満販売階層の比率」と「2000年→2005年の50万円未満販売階層戸数の変化率」を市町村毎に算出したところ、この両者の間に有意な負の相関

(Spearman's $\rho = -0.72$ $p < .001$

Pearson's $r = -0.69$ $p < .001$) が認められ、上記の仮説を支持している(注)。

農業労働力に関しては、農業専従者数を指標として採った場合、農水省統計部の「2005年岩手県統計書」には農業専従者の実数の記載が無く、現時点で2000年以前との比較は困難であるが、「専従者を有する販売農家」の戸数は記載があり、それに基づいて比較を行うと、1995年、2000年に47.3%、47.2%と推移してきた販売農家における「専従者保有」率は、2005年に50.4%となり、過半数の販売農家が少なくとも一人の専従者を保有している状況が生じた。しかしこの変化は、2000年→2005年にかけて、分子の「専従者を保有する販売農家戸数」が5.3%減だったのに対して、分母である販売農家戸数が11.3%減と相対的に大きかったことによるものである。

2000年→2005年の各市町村における専従者保有販売農家戸数の変化率のマッピングも行ったが、販売階層の場合と異なり、明確な地理的特徴は見出し難かった。

注：「旧・気仙郡三陸町」は大船渡市とは独立して算出およびマッピングした。

3. 考察

ここ数年、日本社会の種々の局面で、「格差」が表面化し、それも、優位にあるものの相対的増加によるものと言うよりは、劣位にあるものの相対的増加、すなわち全体としては「下流化」あるいは「アンダークラス化」が進行中であるとの指摘が相次ぎ、実際、ジニ係数等の

諸指標によって、その存在および進行が示唆されている。

岩手県の農家の動向について概観しても、とりわけ2000年以降、アンダークラス化と言うべき状況が進行していると考えられることができる。

農業を営む上での地理的な制約の相対的に緩やかな地域において、とりわけ農家のアンダークラス化が進行していることの要因としては、担い手の高齢化や米価の低迷といった条件の他に、農家世帯員の就業形態の変化（例えば、「自営農業への従事」から「雇用」へのシフト）といったものも視野に入れる必要がある。

販売金額50万円未満の農家比率（2005年：販売農家）

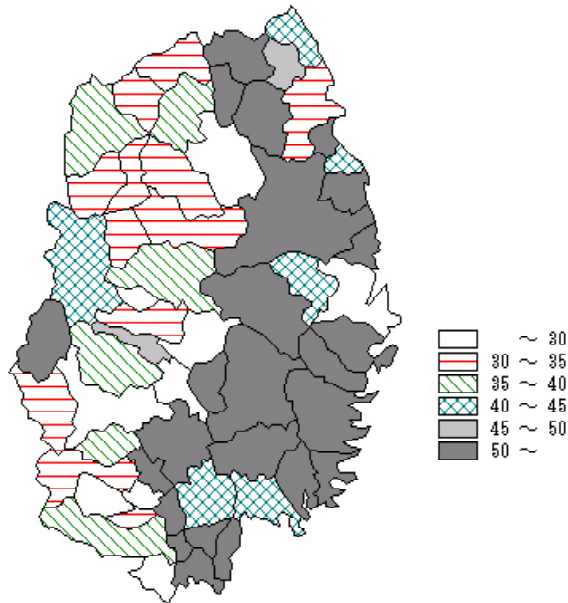


図1 市町村単位で集計した販売農家に占める販売金額50万円未満農家の比率（単位：％）
50万円未満戸数推移（2000→2005年：販売農家）

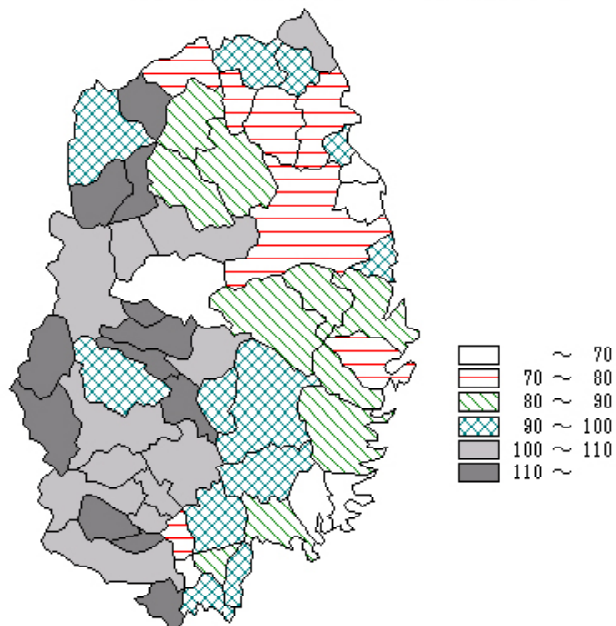


図2 市町村単位で算出した2000年→2005年の販売金額50万円未満の販売農家戸数変化率（2000年値=100）

